

☆明和町立明和中学校区の取組



◆事業概要

1 中学校区の現状と課題

明和中学校区では、仲間を大切にし、思いやりの心をもって周囲に気配りのできる子どもがたくさんいます。一方で、自分に自信が持てなかつたり、自尊感情が高まっているとは言えなかつたりする子どもがいます。また、学習意欲をなくしたり、時には不登校になつたりする子どももいます。

そこで、明和中学校区子ども支援ネットワークでは、子どもたちの自尊感情や学習意欲の向上をめざし、様々な取組を行いました。

2 課題解決のための主な取組

子どもや保護者、地域住民が一体となって、「子ども人権フェスティバル in 明和」に取り組みました。人権バンドの公演やさまざまな体験教室等を催しました。その中から、2つの取組を紹介します。

・昔の遊び道具を作って遊ぼう

小学生を対象に、地域住民が、子どもたちと、一緒になって昔の遊び道具を作り、遊ぶことを通して、つながりを深めたり、知り合つたりする「昔の遊び道具を作って遊ぼう」を行いました。子どもたちは、地域住民に道具の使い方や遊び方を優しく教わり、「上手にできたな。」や「道具の使い方がうまくなったな。」等と声をかけられ、嬉しそうな表情を見せていました。「地域の人に教えてもらいながら、いろいろな昔の遊びを体験できたことがよかった。」と感想を述べる子どももいました。

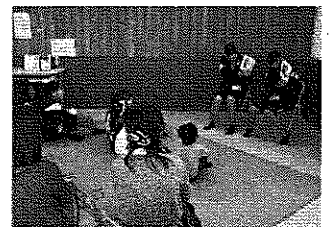
また、地域住民と一緒に遊ぶことで、子どもたちは見守られ感や認められ感を持ち、地域に対する愛着をも深めました。

さらに、この取組を通して、参加した地域住民も互いを知り合い、つながりが深まったことを実感したこと、積極的に子どもに係わろうとする意識を育むこともできました。

・ネットワークお話し会

中学生については、人権委員会に所属している生徒が読み手になり幼児に読み聞かせをすることで、自分に自信を持ったり、自己有用感や自尊感情を高めたりすることをめざし、ネットワークお話し会に取り組みました。

生徒たちは、読み聞かせの先生から読み方を教わり、練習しました。先生から「上手に読めるようになったね。当日もがんばってね」と励まされていました。また、自分でも何度も練習を重ね、お話し会当日は見事な読み聞かせを行いました。幼児に付き添っていた保護者から「とても上手に読めていたね。」と褒められる等、自尊感情を向上させる取組となりました。また、読み聞かせを行った子どもたちも、



お話し会の様子

「絵本の読み聞かせでは、練習を何回もして準備をしました。本番は緊張したけど、うまく読めました。小さい子どもたちも静かにしっかり聴いてくれていたので、安心して読めたし、嬉しかったです。」と感想を綴る等、表現することに自信を深める取組となりました。その後、学習に取り組む姿勢が高まつたり、読書の習慣が身についたりする子どももいました。

◆実践を振り返って

明和中学校区では、様々な取組を通して、子どもたちの自尊感情や学習意欲の向上をめざしました。保護者や地域住民が子どもたちを褒め、励まし、応援したり、協力したり、支えたりすることを通して、子どもたちは自信を持ち、自尊感情や学習意欲を高めることができました。さらに、取組に係わつた保護者や地域住民同士もつながりを実感し、地域住民の間に、「子どもに対して、積極的に関わろう」という考えが定着し始めました。

今後も、子ども支援ネットワークの取組を充実させ、子どもたちの自尊感情や学習意欲の向上につながる取組を展開していきたいと考えています。